

# ミヤ・アンドウ

## *Mugetsu (Invisible Moon)*

作家名 | ミヤ・アンドウ

展覧会名 | *Mugetsu (Invisible Moon)*

会期 | 2021年9月15日（水） - 10月13日（水）

会場 | MAKI Gallery / 天王洲 II, 東京



Miya Ando, *Unkai (Sea Of Clouds)* May 22 2021 5:47 AM NYC, 2021, ink on aluminum composite, 121.9 x 121.9 cm

この度 MAKI Gallery では、ニューヨークを拠点に活動するミヤ・アンドウの2度目の個展となる「*Mugetsu (Invisible Moon)*」を天王洲 II にて開催します。アンドウは約1年前、天王洲 I・II のギャラリースペースに渡る MAKI Gallery 最大規模の展覧会を開催し、絵画、彫刻、インスタレーションなどの作品群を発表しました。本展では、作家の代表作である「*Kumo (Cloud)*; 雲」「*Unkai (Sea of Clouds)*; 雲海」シリーズ、そして「*Shou Sugi Ban* ; 焼杉板」と作家が名づける彫刻作品に焦点を当てています。

アンドウは日本文学や歴史書を研究する中で、月の光や雨、雲など、自然が見せる様々な表情を描写した、詩的で幾層にも及ぶ意味を持ち合わせるような日本語の表現と出会いました。アンドウが強い関心を持ったこのような歴史的な表現は、あらゆるものの存在の意味を哲学的に考え、自然と人間との関係を示そうとするものですが、現代ではあまり使われていません。そのためアンドウは作品を通してこのような表現を視覚的な形に変換し、保存しようと試みています。アンドウが見出したこれら日本語の表現は、作家の多言語で構成された作品のタイトル（日本語と英語）の中に見ることができます。日本語とその意味に近い英語を併記することによって、アンドウは彼女自身のアイデンティティと経験を育んだ、二つの文化間における思考や認識の違いを表現しています。西洋の思想にはないニュアンスを含んだ日本語による自然の描写の仕方が、アンドウの作品のインスピレーションとなっているのです。

そのような表現の一つが、本展のタイトルである「無月」です。無月とは、旧暦8月15日に観測される一年で最も明るい満月、「中秋の名月」が雲で覆い隠されてしまう様子を指します。静かで思索的な展示空間に足を踏み入ると、鑑賞者は、雲で覆われた月の見えない空を見上げているような気持ちになります。アルミ複合材が持つ光を屈折させる特徴により、移ろいゆく光は柔らかく反射され、描かれた雲たちは絶え間なく移動しているように見えます。また、新作の多くは一日の特定の時間や特定の季節、または特定の場所を連想させるような独特の色合いが特徴です。雲は移ろいゆく自然の儚さ、無常さを象徴することから、アンドウの作品に頻りに登場するモチーフです。そこには禅宗の概念である「無」という言葉が重要な役割を果たしています。英語では'nothingness' (何も存在しないこと) のように訳されますが、アンドウはこの無という言葉で「この世界を構成するあらゆるものに永続的な性質や実体はなく、すべてが一時的なものであるという、現実世界の根本的な性質に対する認識が含まれている」と捉えているためです。

アンドウの彫刻作品はこの「無」という概念に対する探求の一部であり、再生木材と硝酸銀を用いて自然のサイクルと過ぎ行く時間に考えを巡らせています。アンドウは日本文化の中で長い歴史を持つ松をシンプルで幾何学的な形にカットし、部分的に硝酸銀を塗布したり、日本の伝統的な技法である焼杉と呼ばれる加工を施したりして、作品を制作してきました。何の加工も施していない部分は、木目をはじめとする木の個性が際立ちます。対照的に、自然に光を反射する硝酸銀の仕上げは、アルミ複合材の絵画作品と同じように周囲を映し出す鏡面効果を持ちます。木材の半分を焦がし、半分を硝酸銀で塗った作品は、光を反射するものと吸収するものという二つの相反する性質を提示しています。各作品は刻一刻と移りゆく時間を保存しようとする試みであり、年輪を露出させることでその木の長い歴史を明らかにします。アンドウは木が生きた時の流れを作品の中に示すことで、私たちに流れゆく時間に対する考察を促しているのです。これらは有機的な素材と無機的な素材を組み合わせながら、自然、そして人間の存在の儚さ、一時性を追求するアンドウの試みに他なりません。

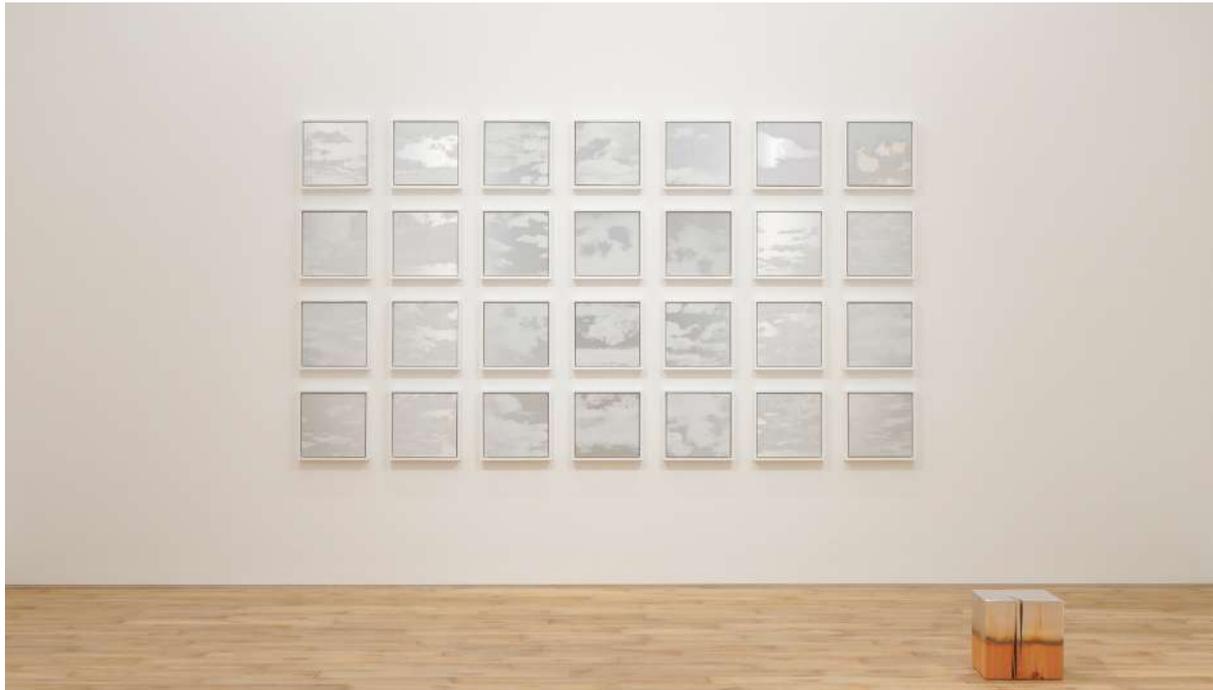
## ミヤ・アンドウ



ミヤ・アンドウは1973年カリフォルニア州ロサンゼルス生まれ。アンドウは鉄、アルミ、木などさまざまな素材を使い、抽象的な絵画や彫刻、インスタレーションなどを制作しています。伝統と現代、産業と自然、東洋と西洋を巧みに融合させ、繊細な感性で自然の在りようを作品に映し出します。

最近ではアジア・ソサエティ・テキサスセンター（ヒューストン）、イサム・ノグチ美術館（ニューヨーク）、Savannah College of Art and Design Museum of Art（ジョージア州サバンナ）、Nassau County Museum of Art（ニューヨーク州ロズリンハーバー）、American University Museum（ワシントン D.C.）などで個展を開催しました。また、クリスタルブリッジズ・ミュージアム・オブ・アメリカンアート（アーカンソー州ベントンビル）、ロサンゼルス・カウンティ美術館（ロサンゼルス）、Haus der Kunst（ミュンヘン）、ブロンクス美術館（ニューヨーク）、クイーンズ・ミュージアム（ニューヨーク）などで開催されたグループ展にも参加しています。またアンドウの作品は、ロサンゼルス・カウンティ美術館、コーニングガラス美術館、デトロイト美術館、Luftmuseum、スコッツデール現代美術館、サンタバーバラ美術館、Museum of Art and Historyなどのパブリックあるいはプライベート・コレクションに多数収蔵されています。アンドウはPollock-Krasner Foundation Grant Awardをはじめとする数々の受賞歴を持ち、数多くの公共の場でも作品を発表しています。特に、9.11から10年の節目にロンドンのエリザベス女王オリンピック

パークに設置された、世界貿易センタービルの鉄骨を使った高さ30フィートの彫刻は、DARCアワードのベストライトアートインスタレーション部門にノミネートされました。また歴史的建造物であるPhilip Johnson Glass House（コネチカット州ニューカナン）のための作品の制作も依頼されています。アンドウはカリフォルニア大学バークレー校で東アジア研究の学士号を取得した後、イェール大学とスタンフォード大学でさらにその研究を深めるとともに、日本では金工師の下で技術を習得しています。



Miya Ando  
*January 1-28 2021 Kumo (Cloud) Grid NYC*  
2021  
Ink on aluminum composite  
134.6 x 235.6 cm

Miya Ando  
*January 8 2021 Matsu Pine Silver*  
2021  
Reclaimed pine, silver nitrate  
27.9 x 27.9 x 27.9 cm

## MAKI Gallery / 天王洲, 東京

### MAKI Gallery / 天王洲 I

〒140-0002 東京都品川区東品川1-33-10

Tel : 03-6810-4850

Fax : 03-6810-4851

E-mail : [info@makigallery.com](mailto:info@makigallery.com)

営業時間 : 火~木曜、土曜 11:00 - 18:00 / 金曜 12:30 - 20:00

定休日 : 日曜・月曜

### MAKI Gallery / 天王洲 II

〒140-0002 東京都品川区東品川1-32-8

\*本企画に関するお問い合わせは下記までお願い致します。